

## 社会医療法人 耕和会 迫田病院 30周年記念に寄せて

～ 30周年記念誌 ～

宮崎太陽銀行 頭取 林田 洋二

社会医療法人耕和会は平成29年10月2日に創業30周年を迎えました。その節目に「30周年記念誌」を発行致しましたが、今回、その掲載原稿の中から、「林田 洋二 様」の寄稿文をご紹介します。

社会医療法人耕和会 理事長 迫田 耕一郎  
社会福祉法人耕和会 理事長

社会医療法人耕和会迫田病院の創立 30 周年を心よりお祝い申し上げます。

今回、寄稿にあたり、10周年と20周年記念誌の中から、当行の諸先輩方や関係者の皆さまが書かれた寄稿文を読み返し、歴史を紐解き、当時の苦労話を興味深く拝見致しました。その内容はまだ若き38歳の青年医師が、宮崎の医療と福祉のあるべき姿を追い求め、「情熱」で多くの人々を動かしてきたことが伝わるものばかりでした。

昭和62年10月に個人で迫田病院を開業し「すべてを患者さまのために、すべてを利用者のみなさまのために」といった理念のもと、医療法人、特定医療法人、そして、この記念すべき年である平成29年4月には公益性が強く求められる社会医療法人へと移行されています。

「良質な地域医療と福祉の提供」のために必要な事業を次々と展開していくバイタリティと一本筋が通ったぶれない想いは30年前の開業当時といまも全く変わらないままであり、迫田理事長の医師としてまた経営者として、そして地域医療・福祉を革新する旗手としてその手腕は高く評価されるものです。

ところで、今後の日本は少子化による人口の減少と高齢化が懸念されており、その結果、人口構造が異なってくるため、必要とされる医療機能も当然変化することが重要とされます。高齢者が増加すれば医療と介護が切れ目なく提供できる態勢が欠かせなくなり、患者さまに応じた質の高い医療を効率的に提供する体制の構築も必要になってくるものと思われます。では、医療機関がこれから求められる機能とあるべき姿はどのように変わっていくのでしょうか。

団塊の世代が高齢者となり、その方々が永年住み慣れた自宅で療養生活を送るための訪問看護や日常生活の自立度を高めるためには介護老人保健

施設が必要であり、高齢者認知症のためのグループホームも地域にとって不可欠な施設となります。

また、高齢者だけではなく、障がい者や慢性的な精神疾患など様々な医療ニーズに対応するためには、まず、民間の医療機関が地域に点在することが必要になってきます。これまで地域に根差した医療サービスを提供してきた耕和会の医療・福祉のネットワークは、まさにこれから行政が目指す地域包括ケアシステムにつながるものです。宮崎県医療計画の基本理念である「いつでも、どこでも必要な医療サービスが受けられる医療体制の確立」をさらに推進するためには、地域に根差し医療体制の整った耕和会グループの役割が益々高まっていくのではないかと考えています。

たとえば、いち早く取り組まれた院内託児所は、現在では小規模型事業所内保育事業として認可を受けた24時間体制の院内保育園へと移行し、働き方改革にも積極的です。本気で子育ての支援を考え、地域とのかかわりを大切にしているからこそ、このように病院関係者、患者さま、地域の人々を繋ぎとめる耕和会の取組みは様々な形で実現されているのだと思います。

少子高齢化は医療分野にとっても地域にとっても大きな問題ではありますが、そこを乗り越えてこそ地方創生が実現されるものと信じていますので、これからも経営理念のもとで取り組まれる地域医療が一人でも多くの人を幸せにしてくれることを願っています。

最後に、この30周年は一つの節目ですが、耕和会は地域医療・福祉のために立ち止まることなく、さらなる発展を成し遂げるものと確信しております。そして、耕和会グループの皆さまのご健勝とご活躍を心よりご祈念申し上げます。

写真は記念式典の様子です



おかげさまで  
**30周年**  
おかげさまで